

令和元年第3回教育委員会臨時会議事録

開催日時 令和元年12月9日(月)
午前9時00分～午前10時00分

場所 教育委員会会議室

出席者 教 育 長 石 黒 貢
教育長職務代理者 加 藤 正 道
委 員 木 下 史 江
委 員 中 川 まどか
委 員 高 橋 洋 一

事務局出席者 教育総務部長 荒 浪 淳
学校教育部長 井 上 正 人
教育総務部副部長兼社会教育課長
井 上 隆 雄
学校教育部副部長兼学務課長
田 口 周 一
教育総務課長 関 根 宏 夫
指導課長兼小中一貫教育推進室長
五 味 理 絵 子
教育総務課庶務係主事 武 内 由 紀
教育総務課庶務係主事 高 橋 仁 志

○ 開会の言葉及びあいさつ 石黒教育長

1. 議 題

議案第47号 [説明者 田口学校教育部副部長兼学務課長]

八潮市学校適正配置指針・計画（案）の策定について

八潮市学校教育審議会からの答申を受け、別添のとおり八潮市学校適正配置指針・計画（案）としたいので、議決を求める。

令和元年12月9日提出

八潮市教育委員会教育長 石 黒 貢

提 案 理 由 八潮市学校適正配置指針・計画（案）としたいので、この案を提出するものである。

【資料説明】

[質 疑]

○石黒教育長

中学校について、通学区域の変更を考えるのはどこの地域ですか。

●田口学校教育部副部長兼学務課長

南川崎と木曾根の一部の地域です。潮止小と八潮中は小中一貫教育のブロックで同じですが、現在は南川崎と木曾根の一部の地域が潮止中へ通学しております。

八潮中の自転車通学が可能になりましたので、小中一貫教育が同じブロックとなることに加え、潮止中の教室不足の対応にも繋がることから、南川崎と木曾根の一部の地域の生徒を八潮中の通学区域とすることを考えています。

○石黒教育長

通学区域の変更の予定は来年度ですか。

●田口学校教育部副部長兼学務課長

通学区域の変更には数年かかります。まずは審議会を開催し、保護者への説

明、翌年に規則改正等がありますので、令和4年頃になると思います。

○石黒教育長

北部、中央部、南部の説明がありましたが、南部の人口が増加し色々な対応をしていかないといけないという中で、北部は児童数の推移を注視するようにと答申の附帯意見もございました。

八條北小の情報ですが、来年度は13名の新入生が入る予定です。今後、八潮団地の子どもたちが八條小へ行くことになってくると、住基上の人数で見ると八條北小は転出が無ければ今の状態が今後も続く推計となっております。また、男女比にも注視しなければなりません。

中央部については、八幡中の生徒数が減少傾向にありますが、将来的には八潮中との統合の可能性もありますか。

●田口学校教育部副部長兼学務課長

八潮中と八幡中は距離が近く通学距離の基準において4km以内とした場合、通学区域が重なっておりますので、将来的に生徒数が減少し小規模対応が必要な場合、そういった可能性もあるかもしれません。

○木下委員

大瀬小学校の児童数が増えており、対応策の1つとしてプレハブが増築されるかもしれないという情報は既に保護者にも入っているようで、様々な意見をいただいております。

もしプレハブを建てることになったら仕方がないことですが、新設校を建てずにプレハブだけを建てるのは納得がいかないというご意見を大瀬小の地域の方や保護者の方からいただいております、この問題について大瀬地区の方はすごく気にされています。大瀬小は平成25年度に学区変更を行っていて大変な負担があった学校なので、アンケートの結果を見ても他の学校と比較するとその経験をしている分、学区変更への理解を得られていないと思います。現に、小学校の学区変更は中学校と比べても凄く大変なことだと思います。

また、プレハブを建てたところで、数年後には児童が溢れかえってしまうの

は目に見えているので、こういったプレハブを建てるのか等といった話しも聞こえてきます。

○石黒教育長

今後、大瀬小の児童数が増加する推計を説明してください。

●田口学校教育部副部長兼学務課長

あくまで推計でございますが、2021年から2049年までは教室不足の可能性が続くと考えております。

○木下委員

南部地区はあきらかに住宅の建設数が増加していますので、今後教室不足になるのは誰が見ても感じるのだと思います。

○加藤教育長職務代理者

プレハブを建てるといっても、校庭の問題もありますが、どのような対応がありますか。

○石黒教育長

教育委員会事務局としての今後の方向性を説明してください。

●荒浪教育総務部長

現在教育委員会事務局として検討している内容ですが、直近ですと、2021年に1教室不足、2022年には2教室不足、2023年には8教室不足するという推計が出ております。1つ2つであれば、多目的教室等の改装で対応することもできますが、8教室足らないとなるとそういった対応で吸収することはできません。この時には新設校が建設されればいいのですが、3年では新設校の建設は間に合いませんので、プレハブ校舎を増築し、溢れないようにする必要があります。

また、プレハブにつきましては、学校教育を行うにあたり、校庭もなくなるくらいプレハブを建設するというわけにはいきませんので、ある程度の規模までしか建設ができません。そうなるとう当然、新設校が必要との話になりますので、平行して潮止中西側の建設予定地に新設小学校を建設する方向で検討をし

ております。

ただし、区画整理の関係での課題もあり、すぐに建設ができる状態にはなっておりませんので、区画整理の施行者である埼玉県に対し至急整備をするよう依頼する必要があります。

○石黒教育長

答申の中で新設校という話も出ていますので、いつ頃になるのか等の話しは教育委員会事務局内部でも煮詰めているところです。教育委員会事務局としても、プレハブを建設するだけで解決というわけにはいきませんので、新設校の建設を前提としたうえで、それまでの期間はプレハブで対応するということを地域の方へお知らせをしていかないと、理解を得られないと思います。

○木下委員

新設校が建つとなれば、建設までの期間に在学することとなる児童の保護者も仕方がないと納得していただけたと思います。

また、赤ちゃん訪問で南部地区の家庭へ訪問する機会がありますが、若い夫婦が都内から新居を建てて引っ越してくる方がとても多くいて、今後大瀬小へ通うことになる子を持つ保護者がいる中で、ある程度方向性を示さないといけないと思います。

●荒浪教育総務部長

先ほどの説明の補足ですが、新設校とプレハブは両方作る必要があると考えていますが、大瀬小の教室不足が全て解消する規模の新設校を建てると、ものすごい規模の学校になってしまいます。大瀬小だけでなく大曾根小も教室不足が予定されているので、2校から引き寄せて新設校を建てることとなります。

過大規模校の解消のためであれば、国から補助が出ますが、過大規模校を解消して過大規模校を建てるとなると、補助が出るかどうかはわかりませんので、ある程度の規模の新設校とすると、大瀬小のプレハブはすぐには解消できず、残ることとなります。通常で考えれば、新設校を建てれば全て解消するという話になりますが、児童数の増加の見込みが激しいのでプレハブはしばらく残る

ことになります。

○石黒教育長

過大規模校になるとどういった対応がありますか。

●井上学校教育部長

過大規模校対応は、小規模校対応と重なる部分もありますが、通学区域の変更、弾力化及び新設分離などの方法です。

○石黒教育長

他市の状況はどうなっていますか。

●関根教育総務課長

吉川市は、新設学校を建ててまだ数年しか経っておりませんが、教室が不足しているため校庭にプレハブ教室棟を建てています。また、越谷市はレイクタウンに学校予定地がないため、近隣の学校へ振り分けをしており、校庭にプレハブ教室棟を建てています。三郷市も新設校予定地がないため、校庭を縮減してプレハブ教室棟を建てている状況です。本市の場合は新設校予定地がありますので、新設校を建てたいというのが教育委員会事務局としての考えであり、現在検討しているところです。

○木下委員

予定地があるのは地域や保護者の方も知っているのですが、予定地があるのになぜ建てられないのかという疑問を持っています。

○石黒教育長

人口推計で増加が見込まれているのであれば、プレハブではなく新設校を建てるべきというのは正しい意見だと思います。

しかし、財政面や区画整理の進捗状況等の様々な問題があり、教育委員会事務局としては非常に苦しい状況ではあります。

○木下委員

これだけ数字がはっきり出ているのに動けないというのは財政的に難しいからですか。

○石黒教育長

30年先を見ていくと必ず減るという見通しもあるので、それであれば新設校の建設はもったいないので通学区域の変更で対応すればいいのではという意見もございます。

○加藤教育長職務代理人

プレハブの耐用年数は何年ですか。

●関根教育総務課長

軽量鉄骨造だと30年です。他市を見ますと5年等でリース契約をし、それを再リースするという形で契約しています。

○石黒教育長

長寿命化計画について説明してください。

●荒浪教育総務部長

令和2年度に長寿命化計画を策定するよう国から指示がきております。学校によって状況が様々なので、一概に全て建て替えるというわけではなく、大規模改修で寿命を延ばす学校もありますし、建て替えをする学校もありますし、そのあたりはバランス等も考えながら策定していく予定でございます。

○加藤教育長職務代理人

現在の校舎は、3階若しくは4階建てですが、大規模改修でさらに上に作るということですか。

●関根教育総務課長

長寿命化につきましては、今ある校舎の寿命を延ばすための資材等を導入します。

また、建て替える場合であれば、統廃合等も視野に入れながら行っていきます。いずれにしても、今の校舎を3階建から4階建にするということであれば、それを含めあらゆる方法を検討する為、調査業務を実施することが必要になると考えております。

○中川委員

これまで教育委員会事務局が作成してきた資料を見たり状況を聞く中で、新設校を開校するのは区画整理の関係等での課題があることはわかりますが、開校に向けて早急に進めていただきたいです。

八潮市学校適正配置指針・計画（案）の資料の中のアンケート結果を見ても、北部・中央部・南部と地域によって保護者の回答も違いますし、それぞれの地域の実情に合わせた形で学校運営を進めていただきたいと思います。

また、八潮市学校適正配置指針・計画（案）もよくまとめてあり、わかりやすいと感じました。

○高橋委員

大瀬小がここまで児童数が増えている現状があるので、新設校を建設されるのであっても、開校前や開校後にも教室不足が生じるのであれば、プレハブで対応する方向性がいいのではないのでしょうか。それであれば地域の方も納得していただけると思います。あとは市の財政の問題が解決しない限り難しいと思います。

○木下委員

教育に関して、もっとお金をかけていただきたいです。

大瀬小学校に通うつもりで引越してきている方も多数いるので、遠い学校へ通学区域を変える必要はないと思います。

30年後には児童生徒数が減るという問題はあると思いますが、この30年間で多くの児童生徒が学校で過ごすことになるので、そこを見ていただきたいです。

○加藤教育長職務代理者

軽量鉄骨造のプレハブは30年間の耐用年数があると伺いました。工期の問題等もあると思いますが、補助対象とならないプレハブのリースではなく、補助金を見据え従来型の校舎を建てるということを考えれば、校舎の耐用年数も長くなります。そして児童数が減少したら老朽化した

校舎は壊すといった考え方はできないのでしょうか。

○石黒教育長

中学校は通学区域を変更し、小学校の南部地区については通学区域を変更しない方がいい。また、新設校については、小学校は早期に建設し、中学校も今後建設していったほうがいい。という意見で教育委員会としての意見をまとめさせていただいてよろしいでしょうか。

[教育長が採決を行い、出席委員全員の賛成により承認される。]

[教育長が臨時会閉会の宣言をする]

会議終了。

次回開催日程

第12回定例会 令和元年12月25日(水) 午前9時30分

会議録作成責任者.....

会議録作成者.....

会議録作成者.....

上記会議録に相違ないことを出席者全員ここに署名する。

八潮市教育委員会

教 育 長

教育長職務代理者

委 員

委 員

委 員